

# 不公正世界信念の多面的測定

## —原因帰属の視点を取り入れた尺度の開発—

西辻 好花

本研究では、不公正の原因帰属を含めた不公正世界信念尺度(UJW-3)を作成した。不公正世界信念は、Lerner (1980) の公正世界信念の一側面として定義されたが、因子分析や相関分析の結果(Furnham, 1995; Loo, 2002; Whatley, 1993)や概念的な違い(Lench & Chang, 2007)から、近年では公正世界信念とは異なる概念として扱われるようになった。しかし、不公正世界信念研究の蓄積はいまだ十分ではなく、そのネガティブな側面にしか光が当たっていない。Lench & Chang(2007)では、ネガティブな出来事の原因帰属先としての不公正世界信念は、自己防衛の手段として機能するとしている。このようなポジティブな側面も含めて不公正世界信念を測定するために、本研究においては、不公正を社会構造、運、ルールのいずれかに帰属させる不公正世界信念尺度を作成した。2回の予備調査を含む6回の調査から、UJW-3はある程度安定した因子構造を持ち(調査 2・調査 3)、先行研究の公正・不公正世界信念尺度とは中程度の関連を持つ(調査 2・調査 3)、一定程度の再検査信頼性(調査 4)を有する尺度であると考えられる。今後の研究では、3 因子それぞれの固有の性質や機能を探索するとともに、その時間的安定性についても精査する必要があると考えられる。また、不公正世界信念が自己防衛などのポジティブな役割を果たす可能性については、実験的手法を用いて検討する必要がある。(社会心理学)

。